

7. 事業の概況（平成 27 年度）

●事業実績

（1）信用事業

組合員・地域利用者の満足度向上を目指し、利用者の立場に立ったサービスの提供・健全性の確保に取り組みました。また、支店・店の顧客基盤拡充に取り組みました。

（2）共済事業

組合員・地域利用者への訪問活動を継続し、ライフプランに応じた「ひと・いえ・くるまの総合保障」の提供を通じて豊かな生活づくりに取り組みました。

また、継続した地域貢献活動の一環として「ベビーサイン体験教室」を開催し、親子の絆づくりを支援しました。

（3）購買事業

営農と購買が一体化した営農振興センターを核に、「農の総合窓口」として、農業関連資材の競争力ある価格設定と安定供給に努めました。また、生活関連資材では、安全・安心な地場農産物等の提供、利用者ニーズに沿ったサービスやイベントを実施し、くらしに密着した生活資材の提供に取り組みました。

（4）販売・倉庫・加工・利用事業

米については、田植え時期以降、順調な生育でしたが、7月の台風 11 号以降の天候不良により、作柄は作況指数で県平均、中勢地区ともに 98 のやや不良となりました。品質においては、出穂期の強風、登熟不良等により、背白、腹白米の発生と、カメムシの被害が多くなりました。全集荷量は 87,200 俵、水稻種子は 42 t の実績となりました。管内の米の 1 等比率は 27%（県内 38%）でした。

夏野菜は、冷夏の影響により出荷量が減少しましたが、振興作物「えびすかぼちゃ」の栽培規模が昨年より増加しました。（面積：2ha 生産者：46名）

秋冬野菜は、定植が遅れましたが、暖冬により生育は回復し、年内は全国的な豊作傾向となり、厳しい販売となりました。菌茸類は需要の高い秋冬期の安定供給に努めました。

果実は、開花期・肥大期の天候不順により小玉果傾向となり、出荷量が減少しました。全国的に不作となり、価格は前年を上回りました。

地産地消の取り組みとして、本年度も菌茸・なばな等について学校給食への供給を実施しました。

農産物直売では、きつする黒部での季節に応じたイベント開催、フェイスブックから旬の情報発信を行い、集客に努めました。

茶については、生産履歴記帳の実践、生産工程管理への取り組みによる「安全・安心な伊勢茶づくり」に取り組みました。全国的に非常に厳しい販売情勢の中、一番茶は、前年に対し収量は 121%・単価 79%でした。

その結果、販売品販売高は、2,923 百万円で、その内訳は、米麦・豆類が 1,287 百万円、野菜・花類が 167 百万円、果実類が 210 百万円、菌茸類が 71 百万円、畜産が 327 百万円、茶が 259 百万円、直売が 599 百万円となりました。

倉庫については、米倉庫の集約化を図るとともに、低温倉庫への集約保管を実施しました。

育苗センターにおいて水稻苗 79,000 箱、野菜苗 2,200 箱を供給しました。また、水稻育苗では、環境に配慮した温湯消毒を実施しました。

東部カントリーエレベーターでは、米 5,800 俵、麦 23,100 俵、ライスセンターでは、米 8,600 俵、麦 19,900 俵を取り扱いました。また、飯高ライスセンターでは、麦種子 1,800 俵を取り扱いました。

(5) 指導事業

営農指導は、経営所得安定対策において、加入対象農家に対し、加入申請及び交付申請等を支援しました。「松阪市農業再生協議会」では、行政機関と連携・協力し、米・麦・大豆の生産振興、担い手対策、農地保全に向けた取り組みを行いました。管内の麦の作付は 1,073ha、大豆作付は 1,001ha となりました。安全・安心な農畜産物を供給するため、共販品目の生産履歴システムを活用した栽培履歴記帳の実践と G A P（農業生産工程管理）の基礎となるチェックシートを実施しました。

生活指導は、JA 松阪女性組織連絡協議会総会に 288 名が参加し、会員同士の親睦を深めるとともに、女性組織活動への参加意識を高めました。また、米津さち子氏を講師に招き、「笑いは、百菓の長」をテーマに記念講演を行いました。女性組織代表役員は、JA 役員との「新春懇話会」を実施し、次世代層についての JA の今後の取り組みをテーマに対話を行いました。また、菅島漁協女性部役員との交流会を実施しました。きつする生氣活気倶楽部では、各支部において地域の子ども達とともに野菜の定植・収穫等、食農体験学習を行いました。また、研修会を開催し、栽培技術の向上を図るとともに、会員相互の交流を深めました。

●損益の状況等の総括

決算の内容は、経常利益で 219,661 千円、当期剰余金で 198,554 千円となりました。

●対処すべき重要な課題

1. 持続可能な農業の実現

地域農業の多様な担い手を育成・支援するとともに、販売体制の強化に取り組み、持続可能な農業の実現に努めます。

2. 組織基盤の維持・拡大

豊かな暮らしづくりを支援する「くらしの活動」の展開による組合員組織基盤の維持・拡大を図ります。

3. 経営の健全性と信頼性の向上

総合的なリスク管理とコンプライアンス態勢の強化、事業・活動における P D C A サイクルの徹底による経営管理高度化に取り組み、経営の健全性・信頼性向上を図ります。

8. 地域貢献情報

●全般的事項

当組合は、松阪市（平成 16 年 12 月 31 日現在における一志郡嬉野町・三雲町を除く）を事業区域として、農業者を中心とした地域住民の方々が組合員となって、相互扶助（お互いに助け合い、お互いに発展していくこと）を共通の理念として運営される協同組織であり、地域農業の活性化に資する地域金融機関です。

当組合の資金は、その大半が組合員の皆さまなどからお預かりした、大切な財産である「貯金」を源泉としております。当組合では資金を必要とする組合員の皆さま方や、地方公共団体などにもご利用いただいております。

当組合は、地域の一員として、農業の発展と健康で豊かな地域社会の実現に向けて、事業活動を展開しています。

また、JA の総合事業を通じて各種金融機能・サービス等を提供するだけでなく、地域の協同組合として、農業や助けあいを通じた社会貢献に努めています。

組合員数	13,323 人	出資金	1,429,205 千円
------	----------	-----	--------------